

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福法人 萱垣会		
事業所名	中津川市グループホームまごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835-204		
自己評価作成日	平成26年7月26日	評価結果市町村受理日	平成26年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2171500040-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>在宅時の生活の継続を大切にしています。畑作り・裁縫・調理等、御本人の出来る力を活かせるように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、古代から中世の官道、神坂峠中間駅舎であった広済院の由緒ある所に位置し、平成14年に開設している。利用者は、豊かな自然環境の中で、在宅生活の継続を大切に、家族やボランティア、併設の特別養護老人ホーム広済寮の人々と、親しく関わりながら、その人らしく暮らしている。毎年、運営理念の実践に向けて、具体的な10の行動計画を掲げている。そして、利用者の残存機能を活かし、生きる喜びが実感できるように支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念とは別に、まごころ独自の理念を立て、毎朝唱和し利用者本位の生活の支援をしている。	理念は「寄り添い・見守り・共に暮らす」と掲げている。職員会議で、理念を共有し、運営方針の行動計画に沿って実践をしている。利用者の自分らしい生き方を支え、思いを大切に暮らすを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に来て頂いたり、地域の行事に参加したり、買い物時に声をかけてもらったりして、地域の方と交流、顔なじみの関係作りをしている	地域の一員として、盆踊りや文化祭に作品を出展している。事業所のイベントには、地域住民を招待している。ボランティアの協力で、周辺の草刈りや野菜畑の管理等で協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの方に行事の時に協力して頂き、認知症の方と関わっていただき、理解をしていただけるように伝えています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の役員の方、ご家族の方々に参加して頂き、事業・活動報告、施設見学、サービス評価事業、外部評価を報告し意見をお聞きしサービス向上に活かしている。欠席した方には議事録を送付している。	会議は、2ヶ月ごとに開催し、多様な意見を出し合い、サービスの向上につなげている。行事計画や家族会との連携、同業者との交流、災害対策などを話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の指定管理を受けており、年1回は実施指導を受ける中、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えご指導を受けている。	市の指定管理を受け、建物の保守管理で、常に連携は取れている。市の介護相談員の訪問を受け、助言を得ている。また、担当者へは、事業所の実情をこまめに伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドのサイドレール、車椅子テーブル等、身体拘束になるという事、行ってはいけない事項として話し職員研修会を通し職員に周知徹底を図っている。玄関の施錠もなし	法人内の、身体拘束ゼロ委員会で、安全な介助方法を徹底し、拘束のないケアにつなげている。言葉による抑制や精神的拘束にならないように周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で周知をはかり、研修に積極的に参加し、事業所内での委員会を作り、虐待防止に努めている		

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修に参加したり、運営推進会議で勉強会を開催し、家族等との意見交換もしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、時間をかけて説明し、家族の思いや質問を聞き、介護保険改正のある場合も変更文章を交付しご理解を得る努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス評価事業、満足度調査や外部評価の家族アンケートを通し、第三者委員の方にも関わって頂き、そこで出た意見を職員会や運営推進会議等で伝達し、改善に努めている。いつも閲覧できるようコーナーを設けている。	一年おきに、家族に満足度調査を実施している。また、利用者には、茶話会を毎月行い、意見や希望を聴く場を設けている。そこでの意見等は、職員会議で検討を加えて、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会にて、職員の意見を提案する機会を設け、その意見に対し、対応又は助言をし、運営に反映させている	定例の全体会議で、職員からの提案や意見を話し合っている。また、個別の議題に特化した会議も行っている。より良いケアの工夫や職場環境の改善等を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況の把握に努め、各自が働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。話があれば、相談、助言をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を把握し、内外への研修に参加するようにしながら育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会や、地域の各種団体が組織しているネットワーク会議にも積極的に参加を促して、サービスの質を向上させる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人と家族の話を伺う機会を設け、本人の気持ちを受けとめるよう努めている。又、その事を職員全体で共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を伺う機会を設け、不安な事や要望等、家族の気持ちを受けとめ、支援に組み入れるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく伺い、その方に合った支援が出来るよう努力している。又、その方の状態の変化に応じて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作りや生活の場面の中で、利用者様に決めて頂く事を一番に考え自立支援に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに連絡をとり、変化を伝え、共に本人を支えていけるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの方の面会の受け入れ、馴染みの場所へのドライブなどを取り入れたたりしている。	入居時に、馴染みの人や場の聞き取りをしている。顔見知りのボランティア仲間や商店主、同級生の親等の訪問がある。馴染みの場所へは、ドライブをかねて出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を大切にし孤独にならないよう、話が合う方と座って頂いたり、居心地良く過ごせる時間や空間作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られることになってもご家族へ何かあればいつでも相談にのります。と伝え、面会に行ったりして様子を伺ったり、在宅へ戻られても、その方に合ったサービスが受けられる様、居宅ケアマネとの連携もとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の茶話会などで利用者様の意見や要望を聞きながら支援をしている。聞き取りが困難な方には家族様に伺いながら支援をしている。又その方の立場に立って支援を考えるよう努力をしている。	日常生活のなかで、表情・行動・言葉などから意見や意向を把握している。困難な人は、思いに寄り添い、その人に応じた暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、それまでの生活内容の話を聞いたり、日々の会話の中でその方の思いを聞きながら、馴染みのある事を取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランをもとに個々の必要な支援を心掛け、一人一人ができる事を大切にしている。個々の状態の変化にも気を配り、毎月評価し次につなげるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活をよりよくする為に、本人、家族の意見を聞き、日々の暮らしの様子をご家族に伝え御本人の強みを引き出せるよう介護計画を作成している。	利用者・家族、関係者の意向や気づきを配慮しながら、介護計画を作成している。個別サービス実施表に基づき、モニタリングを行っている。本人の強みを活し、その人らしく生活できるプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まごころサービス計画実施表を用いて、毎日の生活の気づいた事や強みを記入し情報を共有しながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に担当者会を通じ、必要な支援を考案し、個人、家族と相談しながら福祉用具等を用いて支援をしている。		

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人出身地の社会福祉協議会や民生委員の慰問受け入れ、五感健康法の委員さんにも来て頂き本人の心身の力が発揮できる場面を作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医への受診を継続し症状の進行などにも家族と相談しながら専門医への受診にも対応している。	入居前からの、かかりつけ医を継続している。通院介助は、家族が対応し、関係者で受診情報を共有している。協力医と精神科医の訪問診察があり、状態に応じて、希望者が受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と隣接する特養の看護師が連帯をとり相談、適切な受診ができるよう助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院への面会をしながら、家族、病院関係者と連絡をとりながら治療や退院に向けて相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の気持ちを十分に配慮しながら、早い段階において相談しながら、事業所において出来る限り、意向に添えるよう努めている。又、終末期の勉強会も行っている。	本人・家族の気持ちを尊重して、できるだけ意向に添うように対応している。また、段階的に、家族やかかりつけ医と話し合い、他の医療機関とも連携を取りながら、重度化や終末期の支援体制を取っている。	職員が、終末期対応の心理的負担を少なく穏やかにできるように、精神的なスキルアップに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	年数回、救急法の講習会に参加したり、併設特養の看護師より教えて頂いたことを生かして、訓練に取り入れ実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内に委員会を設け、年間計画と共に色々な想定のもと訓練を行っている。日中や夜間の訓練も行い、年一回併設特養と合同で、地域の方・消防署・消防団の方に参加して頂き夜間訓練を行っている。	年間計画を立て、毎月自主訓練を実施している。法人内に、災害対策委員会を組織し、地域や消防と連携した合同訓練を行っている。非常食の確保や危険箇所の総点検、通報のシミュレーションをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活環境、できる事等を職員全員で共有し、まごころでの生活を生き生きと過ごせるよう、言葉かけや対応に配慮している。	入浴や排泄時には、羞恥心に配慮をしている。呼びかける時は、マナーを守り、心地よい言葉かけに努めている。そして、一人ひとりの笑顔を大切に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	味付けや味見をしたり、衣類を選んだり、本人が自己決定できる事を大切に選択の自由を尊重しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、ペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んでもらったり、訪問理美容をお願いし、髪の色も本人の好みにして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできること(味付け、一人一人のトレー、お箸)家事に参加してもらい、やりがいを感じていただけるよう支援している。	ホーム菜園で収穫した野菜を食材にしている。調理の味付けや盛り付け等は、利用者の経験を活かしながら、食事づくりをしている。時には、山菜の天ぷらや五平餅、焼き芋等、楽しみのある食生活を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じて食べられる量を盛りつけするよう気配りをしている。水分量は摂取量に気を付け、こまめに一日1500ccを目標に摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に洗面所での歯磨きの声掛けをし、自分で出来ない方には職員が歯磨き介助をしている。		

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレに誘導し排泄を支援しており、記録をつけて時間調整も行っている。オムツ外しの記録、計画を取り入れている。	排泄の自立に向け、おむつ外しに取り組んでいる。介護度4、5の人は、2人介助で対応して、成功体験を重ねている。その結果、尿意のサインが出るようになり、トイレでの排泄につながっている。	下肢筋力低下で立位困難な人への援助方法の、更なる研鑽に期待をしたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をとりいれ、食物繊維を多く取れるように気を付けている。(例 寒天ゼリー等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴希望を聞き、週2回以上の入浴。その他に入浴の希望があれば入って頂けるようにし清潔が保てるようにしている。	入浴は週に2回以上は入れるようにし、希望があればそれ以上の入浴も支援している。浴槽またぎの困難な人もあるが、できるだけ湯船に入れるように工夫をし、安全で安楽な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の思いや生活パターンを大切に、水分補給や軽いおやつなどを飲食して貰ったり、話をしたり、夏場は風通しを良くし気持ちよく眠って頂ける様支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当者を決め、薬が変わった時、処方箋に目を通し、職員間にて申し送り、またいつでも確認できるようサービス計画実施表と一緒にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが今までの生活で続けてきた事を活かせるよう、縫い物、食事作りや、お祝いごとでは好みを聞いて献立をたてたり、畑作り等、本人に張り合いを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアや家族さんにも協力して頂き、本人が行きたい場所に行けるよう支援に努めている。	ホーム周囲の散策を日課にしている。菜園での収穫や山菜とり、買い物などで外出をしている。ボランティアや家族に協力を得、季節の花見や外食を兼ねたドライブを支援している。	

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など財布を所持してもらい自分の買いたいもの、外食時には自分で払えるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があれば本人と話ができるよう支援をしている。暑中見舞いや年賀状を出したりすることも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に落ち着いた色調や、暖かみのある家具等を配置している。食堂から見える窓には、日よけのグリーンカーテンを作り、季節の花を活けてもらったりして楽しんでいる。	居間と調理場が一体化した構造である。天窓から新鮮な空気が入り、窓越しには、季節を感じる風景が見える。ベランダには、観葉植物のリースを飾り、玄関には、季節の花を活け、居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で本を読まれる方やソファーにて気の合う人と話をされたり、外を見て食事をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器棚や面会者の方用の座布団、本人、家族の写真など、本人の馴染み、落ち着く品物を家族さんをお願いをし居心地よくいられるよう支援している。	ベッドと押入れ、洗面台は備え付けである。思い出のある絵手紙や書籍、家族の写真等を、見やすく配置してある。居室ドアの上部に自画像の作品を飾り、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干しや洗濯たたみ、モップかけ、食事作りなど一人一人の力や役割が発揮できるよう支援している。		